

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 林 裕二	職名 教授	学位 修士 (文学) (西南学院大学 1993 年)
---------	-------	----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語学	統語論、会話分析、文体論、比較文化

研 究 課 題
<p>英語学の領域で、特に会話分析、談話分析を専門とする。ビジネスコミュニケーションにおけるレターや文学作品、映画(脚本)を言語資料として、人間関係をどのように言語が反映するかを考察する。それらの分野の知見を援用した創作活動として、詩・英語俳句等にも取り組む。</p>

担 当 授 業 科 目
<p>人文学入門 (前期) (英語学科・観光文化学科) 基礎英語 (前期) (観光文化学科) マルチメディアイングリッシュ基礎 (前期) (観光文化学科) 専門演習 I (前期) (観光文化学科) 北九州の技と文化 (前期) (看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科) 初年次セミナー I (前期) (観光文化学科) 初年次セミナー II (後期) (英語学科・観光文化学科) 応用英語 (後期) (観光文化学科) 応用 TOEIC 演習 (後期) (観光文化学科) 中級英文講読 (後期) (観光文化学科) 上級日本語 (後期) (観光文化学科) マルチメディアイングリッシュ応用 (後期) (観光文化学科) 専門演習 II (後期) (観光文化学科)</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>【人文学入門 (前期) (英語学科・観光文化学科)】 人文学部の担当教員複 7 名がそれぞれ 1 回か 2 回担当する。人文学部での学びの導入として、先ずは一般論的な人文学の枠組み、そして本学における人文学関連の学びの枠組みを知ることがを目的とする。2021 年度のリフレクションから、この授業全体の目的がよりわかりやすくなるように、出席や提出物の評価基準がシラバス (配布) にどのように示されているか、それをどう理解するかにも触れた。担当は 2 回目分のみ。そこでは、「読む」をテーマとして話した。</p>
<p>授業科目名【基礎英語 (前期) (観光文化学科)】 1 年次の学年を二分割したクラスサイズである。授業では基礎的な 4 技能を伸ばすことを目的とした。基礎的な文法が弱いところには、丁寧に繰り返し説明をした。対面授業であり、E-learning の CHieru と英文多読活動の達成度を上げるように、声を掛け続けた。</p>
<p>授業科目名【マルチメディアイングリッシュ基礎 (前期) (観光文化学科)】 2019 年度の新規科目の 4 年目。昨年までは A、B クラス別であったが、本年度からは 1 クラスでの開講となった。E-Learning の CHieru を使う必修科目。個々の学生のペースに応じて、リスニング、語彙力、読解力を高めるトレーニングをした。また学習時間を担保できるように情報処理演習室を使ったが、当初は PC の電源の入れ方、端末操作のレビューから始まった。学習マイルの目標を持たせて計画的に取り組めるように</p>

<p>した。授業最初に小テストを毎回行い、遅刻者が出ないようにした。1年次の基礎英語、応用英語の CHIeru 学習の体験が生きた。</p>
<p>専門演習I (前期) (観光文化学科)</p> <p>文献の探し方、人前でわかりやすいプレゼンテーションの仕方や、自分の関心のある新聞・雑誌の文章を選び、読み・書きの基本を学ばせた。ある程度内容のある文献を読ませて、要約、発表、質疑応答のサイクルと重ねた。希望者に第二回ビブリオバトル(書評大会)の企画・運営をさせた。英語学科学生の参加も得て、人文学部規模での開催となり盛会となった。</p>
<p>北九州の技と文化(前期)(看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科)</p> <p>外部講師5名を招いて、科目名に相応しい内容となるように工夫した。外部講師には、打ち合わせ段階で、90分を対面で行う際の学習効果を上げるための資料の提示の仕方、グループ学習の方法を説明した。敢えて5学科の学生が混ざりあうようにグループを構成した。履修者(80名)が、それぞれの回の最後には活発に質問をしてくれた。</p>
<p>初年次セミナーI(前期)(観光文化学科)</p> <p>1年生(5名)の受講生に高校の教育内容との機能的な内奥で大学の授業の受け方を学ばせた。テキストを指定して、初回のオリエンテーションで、最終回までの予習範囲を指定して、予習、提出物、復習の学習サイクルを確立させるようにした。</p>
<p>初年次セミナーII(後期)(英語学科・観光文化学科)</p> <p>第2回目の授業だけを担当。倫理がテーマで、倫理審査委員が担当している。1年生にとって、そして大学でも必要なことは、剽窃・盗用をしないということの意識づけを目的とした。1年生のこの時点では、著作権はあまり意識がないので、盗用を扱った新聞記事を提示して、何が問題なのかを理解できるようにさせた。</p>
<p>応用英語(後期)(観光文化学科)</p> <p>基礎的な英語の4技能を伸ばすことを目的とした。これは前期の基礎英語でも目指したものである。但し、前期後期で担当クラスが異なる。E-learningのCHIeruの学習と多読もある。両方とも授業外の活動としており、オリエンテーションではそれぞれの活動についての説明を行った。CHIeruの学習マイルコンテストで、上位者を表彰するという事で、学習の動機づけとした。予習を促す方策として予習ページを撮影して、送らせた。これは非常に効果的だった。</p>
<p>応用TOEIC演習(後期)(観光文化学科)</p> <p>TOEIC演習シリーズの中での応用レベルである。応用とはしているが、基本的な文法力を養うことは必要であり、そこを強化しながら、リスニングや読解力を更に伸ばすために、こまめに質問をして答えさせるパターンを繰り返し行った。音読の課題として、音読を録音させ、それを提出させた。これは個別指導が非常にしやすかった。月曜日の昼休み直後の授業であり、眠らせないように机間巡視を頻繁に行い、質問をした。これはPPTをリモートで操作し、ワイヤレスマイクを利用することで可能になった。</p>
<p>中級英文講読(後期)(観光文化学科)</p> <p>予習範囲を示し、それをしたことを写真で提出させて、予習率を高めた。英文講読のトレーニングの学習効果を確認するために、毎回短いエッセイを課して、添削をし、原文と添削を印刷して、次回に配布して、復習につないだ。この方式では、非常に立派な英文を書くことができた。</p>
<p>上級日本語(後期)(観光文化学科)</p> <p>中国からの交換留学生1名が対象。ある程度の基本を前提として、四技能を伸ばすトレーニングを繰り返した。中国語話者にとって、日本語学習のポイントである助詞、活用、敬語等に焦点を当て、指導を行った。</p>
<p>マルチメディアイングリッシュ応用(後期)(観光文化学科)</p> <p>前期マルチメディアイングリッシュ基礎で得た力を、更に伸ばす授業である。対面であり、遠慮なく個別に音読をさせられるようになり、学習の質と量を確保できた。Google Documentでの音声入力に慣れさせて音読の練習をさせて、録音させて提出させた。CHIeruの学習マイルコンテストで、上位者を表彰することを予告して学習意欲を高めた。</p>
<p>専門演習II(後期)(観光文化学科)</p> <p>プレゼンテーションスキルを伸ばし、文献をさがす方法、文献をどう解釈して、論文・レポートに生かすかを繰り返し、輪読を通して実践していった。卒論を次年度は書くために、自分の関心がどこにあるのかという意識づけをさせた。</p>
<p>卒業研究(通年)(観光文化学科)</p> <p>8名のクラス。卒論指導については、学年当初は全体指導を、そして授業が進むにつれて、個別指導の割合を増やしながら、制作に取り組みさせた。質的研究を取り入れることは3年の前期には伝えていたが、どうしても</p>

就職活動との関係で、取り組みが遅くなる傾向がある。コロナの影響が大きく、大半がオンラインでのアンケートとなった。デジタル世代の学生であり、いろいろなツールを使いこなして、アンケートを実施していた。参考文献については印刷文献の利用がどうしても後手となり、ネットからのデジタル文献利用が主になる傾向がある。妥協点として、印刷された文献のデジタル版を取り込むことを指導した。資料非公開の機関・組織に対しても、工夫をして、貴重な一次資料を得た学生も出た。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) (旧日本商業英語学会)	九州・山口支部長 (2010年2月～2018年9月) 本部理事 (2015年11月～2019年10月) 研究年報査読委員(2016年3月～現在に至る) 本部常任理事(2021年10月～現在に至る) 九州・山口支部長 (2022年3月～現在に至る)	1993年6月～現在に至る
映像メディア英語教育学会(ATEM) (旧映画英語教育学会)	九州支部会計監査 (2006年1月～2011年12月) 紀要査読委員(2010年4月～2012年3月) 紀要査読委員 (2018年1月～現在に至る) 九州支部副支部長(2008年10月～2011年10月) 九州支部運営委員 (2012年1月～現在に至る)	1994年2月～現在に至る
日本コミュニケーション学会	九州支部紀要編集委員 (2011年9月～2015年6月)	1994年12月～2015年3月
日本人類言語学会 英語コーパス学会 日本比較文化学会	九州支部会計監査(2013年3月～現在に至る)	2002年10月～2004年3月 2003年4月～2009年3月 2010年2月～現在に至る
万葉学会	本部事務局長・理事	2018年5月～現在に至る 2014年2月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 英語の俳句	単	2022年10月	公益財団法人山形市文化振興事業団 山寺芭蕉記念館 第14回山寺芭蕉記念館英語俳句大会入選作品集	紙媒体とオンラインでの出版。 投句数221、入選句数37。
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) オンライン英文校正ツール‘Grammarly’活用法	単	2023年2月	日本比較文化学会 第35回九州支部大会 (於：福岡女学院大学)	AI、ビッグデータを利用したオンラインの革新的英文ライティングツールの仕組み、活用法を議論した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

--	--	--	--

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
財団法人日本英語検定協会	英語検定試験二次試験面接 委員	1995年8月～2023年8月

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
入学試験会議 大学キャンパス・ハラスメント防止・対策委員会 学生募集委員会 (副委員長) 倫理審査委員会 将来計画委員会